

学力・学習習慣と学校における学習指導との関わりについての分析（案）

要約

児童生徒の学力や学習習慣に、学校における学習指導がどのように関与しているかを図示するモデルを構築した。

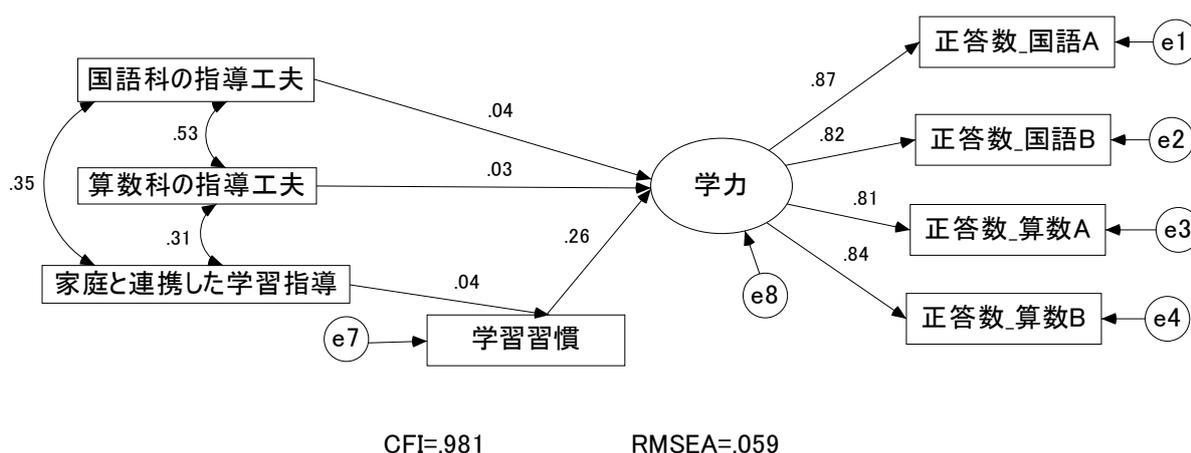
この分析から、教科の指導の工夫は児童生徒の学力向上に有効であるとともに、保護者に対する働きかけや宿題を課すなど学習習慣の定着のために行われる「家庭と連携した学習指導」は、学力向上に有効であるとの示唆が得られた。

本分析の目的は、児童生徒の学力、学習習慣と、学校での学習指導との関係を共分散構造分析¹によって明らかにすることである。

分析の対象は、4月22日に調査を受けた全ての児童生徒である。

1. 学校での学習指導と学力の関係

①小学校



標準化総合効果

| | 国語科の指導工夫 | 算数科の指導工夫 | 家庭と連携した学習指導 | 学習習慣 | 学力 |
|---------|----------|----------|-------------|-------|-------|
| 学力 | 0.036 | 0.031 | 0.011 | 0.263 | — |
| 学習習慣 | — | — | 0.043 | — | — |
| 正答数_国語A | 0.031 | 0.027 | 0.010 | 0.227 | 0.865 |
| 正答数_国語B | 0.030 | 0.026 | 0.009 | 0.217 | 0.825 |
| 正答数_算数A | 0.029 | 0.025 | 0.009 | 0.213 | 0.811 |
| 正答数_算数B | 0.030 | 0.026 | 0.010 | 0.220 | 0.836 |

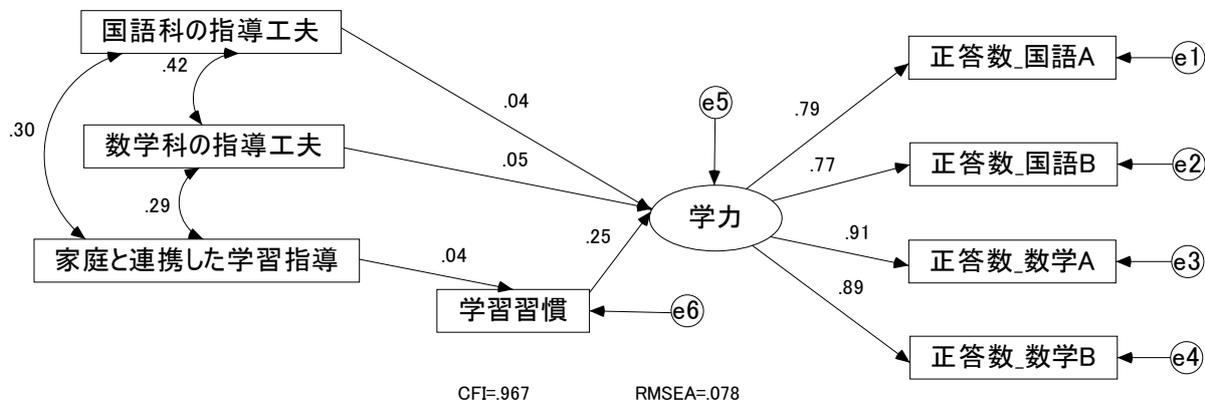
まず、小学校についての分析の結果を示す。上の図は、学校での学習指導と、児童の学習習慣、学力との関係を仮定したモデルである。検定の結果、CFI²は0.981とモデルの適合度の目安である0.95よりも良好な値を示し、RMSEA³の値も0.059と0.05以下ではないものの0.1以下と比較的良好であった。このモデルと、標準化総合効果⁴の表から、以下の3点が確認できる。

- ・このモデルでは、学習習慣と学力が大きく関係している。
- ・国語、算数の指導工夫は、学力と直接関係しており、家庭と連携した学習指導は、児童の学習

習慣を介して間接的に学力と関係している。

- ・国語、算数の指導工夫、家庭と連携した学習指導はそれぞれ関係している。

②中学校



標準化総合効果

| | 国語科の指導工夫 | 数学科の指導工夫 | 家庭と連携した学習指導 | 学習習慣 | 学力 |
|---------|----------|----------|-------------|-------|-------|
| 学力 | 0.045 | 0.052 | 0.010 | 0.246 | — |
| 学習習慣 | — | — | 0.040 | — | — |
| 正答数_国語A | 0.035 | 0.041 | 0.008 | 0.193 | 0.786 |
| 正答数_国語B | 0.034 | 0.040 | 0.008 | 0.188 | 0.767 |
| 正答数_数学A | 0.041 | 0.047 | 0.009 | 0.223 | 0.910 |
| 正答数_数学B | 0.040 | 0.046 | 0.009 | 0.219 | 0.894 |

中学校でも、小学校と同様に CFI は良好な値を示し、RMSEA も比較的良好な値を示していた。学校での学習指導と生徒の学習習慣、学力との関係については、小学校と同様の 3 点が確認できた。

2. まとめ

以上の結果から、小学校、中学校ともに、国語、算数・数学の教科の指導を工夫することは、児童生徒の学力の向上に有効であり、また家庭と連携して学習指導を行うことは、児童生徒の学習習慣の定着に寄与し、間接的に学力の向上に役立つことがわかった。このことから、学力向上を図るためには、教科の指導の工夫だけでも、家庭と連携した学習習慣の定着に向けた取組だけでも十分ではなく、両者によって一層の効果が出ると考えられる。

付表. 主成分分析⁵の結果（小学校）

主成分：学習習慣

| | |
|---------------------------------|--------|
| 児童質問紙回答_28／家で学校の授業の復習をしていますか | 0.825 |
| 児童質問紙回答_27／家で学校の授業の予習をしていますか | 0.815 |
| 児童質問紙回答_25／家で自分で計画を立てて勉強をしていますか | 0.746 |
| 児童質問紙回答_26／家で学校の宿題をしていますか | 0.425 |
| | 初期の固有値 |
| | 分散 |
| | 52.013 |

<学校>

主成分：国語科の指導工夫

| | |
|--|--------|
| 学校質問紙回答_54／国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行いましたか | 0.777 |
| 学校質問紙回答_55／国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか | 0.761 |
| 学校質問紙回答_53／国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか | 0.728 |
| 学校質問紙回答_52／国語の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか | 0.624 |
| | 初期の固有値 |
| | 分散 |
| | 52.579 |

主成分：算数科の指導工夫

| | |
|--|--------|
| 学校質問紙回答_60／算数の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか | 0.844 |
| 学校質問紙回答_59／算数の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか | 0.844 |
| | 初期の固有値 |
| | 分散 |
| | 71.191 |

主成分：家庭と連携した学習指導

| | |
|--|--------|
| 学校質問紙回答_77／算数の指導として、保護者に対して児童の家庭学習を促すよう働きかけを行っていますか | 0.829 |
| 学校質問紙回答_78／算数の指導として、家庭学習の継続的な実施や習慣付けを図るために家庭学習の課題を与えていましたか | 0.824 |
| 学校質問紙回答_72／国語の指導として、家庭学習の継続的な実施や習慣付けを図るために家庭学習の課題を与えていましたか | 0.814 |
| 学校質問紙回答_71／国語の指導として、保護者に対して児童の家庭学習を促すよう働きかけを行っていますか | 0.804 |
| | 初期の固有値 |
| | 分散 |
| | 66.887 |

付表. 主成分分析の結果（中学校）

主成分：学習習慣

| | |
|---------------------------------|--------|
| 生徒質問紙回答_28／家で学校の授業の復習をしていますか | 0.823 |
| 生徒質問紙回答_25／家で自分で計画を立てて勉強をしていますか | 0.768 |
| 生徒質問紙回答_27／家で学校の授業の予習をしていますか | 0.756 |
| 生徒質問紙回答_26／家で学校の宿題をしていますか | 0.677 |
| 初期の固有値 | 2.298 |
| 分散 | 57.444 |

<学校>

主成分：国語科の指導工夫

| | |
|--|--------|
| 学校質問紙回答_54／国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行いましたか | 0.738 |
| 学校質問紙回答_55／国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか | 0.707 |
| 学校質問紙回答_53／国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか | 0.700 |
| 学校質問紙回答_52／国語の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか | 0.658 |
| 初期の固有値 | 1.968 |
| 分散 | 49.191 |

主成分：数学科の指導工夫

| | |
|--|--------|
| 学校質問紙回答_59／数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか | 0.822 |
| 学校質問紙回答_58／数学の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか | 0.822 |
| 初期の固有値 | 1.350 |
| 分散 | 67.492 |

主成分：家庭と連携した学習指導

| | |
|--|--------|
| 学校質問紙回答_75／数学の指導として、保護者に対して生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行っていますか | 0.787 |
| 学校質問紙回答_69／国語の指導として、保護者に対して生徒の家庭学習を促すよう働きかけを行っていますか | 0.772 |
| 学校質問紙回答_76／数学の指導として、家庭学習の継続的な実施や習慣付けを図るために家庭学習の課題を与えていましたか | 0.699 |
| 学校質問紙回答_70／国語の指導として、家庭学習の継続的な実施や習慣付けを図るために家庭学習の課題を与えていましたか | 0.694 |
| 初期の固有値 | 2.186 |
| 分散 | 54.640 |

注

1. 共分散構造分析とは、観測された変数と、その背後にある目に見えない概念としての潜在変数が、どのような構造をしているかを図示する分析方法である。
2. CFI とは、観測変数間に全く相関がないモデルから、どれだけモデルが改善されたかを表す指標である。0.95 以上であれば良好な値であると評価され、0.9 未満ではモデルを改善する必要があるとされる。
3. RMSEA とは、モデルが母集団の真のモデルからどれだけ乖離しているかを表す指標である。0.05 より小さければ良好な値であると評価され、0.1 以上ではモデルを改善する必要があるとされる。
4. 標準化総合効果とは、それぞれの変数間で、直接・間接にどのくらいの影響があるのかを示す値である。
5. 主成分分析とは、複数の変数を少数の総合的な変数に縮約する分析方法である。